

文化・環境・教育

歴史と伝統に培われた新しい京都の教育

目指すべき将来像

【20年後にありたい姿】

- すべての子どもが「包み込まれているという感覚」を実感し、安心して受けたい教育を受けられる教育環境が実現しています。
- 人を思いやり、人権を基盤として共に助け合い、高い志とグローバルな視野を持ち、次代の京都を支える人材を育成しています。
- 社会総がかりで、幼児期から成人までを見通し、京都の力を活かした教育を提供しています。

【4年後に到達させたい状態】

- 学校が児童生徒にとって安心・安全な居場所となり、不登校児童生徒数が減少するとともに、ICT教育環境の整備等によって、一人一人の個性や能力に応じた教育を実施しています。
- 様々な国際交流を通じた異文化理解が進み、世界を視野に行動できる人材の育成に向けた取組が充実しています。
- コミュニティ・スクール等、地域と学校が連携・協働して取組を行う地域とともにある学校が増加しています。

- 新学習指導要領の円滑な実施に向けた、教員の資質能力向上や教育環境の整備が求められています。

- 子どもの学力は、全国学力・学習状況調査の結果を見ても、これまでの取組の成果が表れています。
(全国学力・学習状況調査結果【都道府県別順位の推移】)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
小学校	7位	11位	9位	8位
中学校	12位	17位	13位	12位
実施教科	国・算(数)・理	国・算(数)	国・算(数)	国・算(数)・理

- いわゆる過労死ラインの月80時間以上残業している教員が、全国調査と比較しても相当多く、非常に深刻な状況にあります。

(平成29年度公立学校教員勤務実態調査【速報値】)

▶ 全国と比較し、過労死ライン(月80時間)相当以上超過勤務者が多い
 <小学校教諭>52%(全国34%) <中学校教諭>72%(全国58%)

▶ 全国と比較し、特に土日の勤務時間が長い(1日当たり)
 <小学校教諭>2時間30分(全国1時間7分) +1時間23分
 <中学校教諭>4時間19分(全国3時間22分) +0時間57分

- 府北部、特に丹後地域では、大幅な中3生数の減少により、高校の小規模化が一層進行することが予測されます。

(府内中学3年生数の推移【口丹・丹後地域】) *2021年度以降は予測値

	2018年度	2021年度	2024年度	2027年度	2030年度
口丹	1,240	1,139	1,137	1,070	962
丹後	849	770	686	624	588

- 特別支援学校や特別支援学級に在籍している児童生徒が増加しています。

(京都府(京都市立学校を除く。))における特別支援教育対象者 ※ () 構成比、 [] 伸び率

	2010年度	2017年度	2010→2017伸び
特別支援学校(小中学部)	754人(18.6%)	865人(15.2%)	+111人[+14.7%]
小中学校(特別支援学級・通級)	3,293人(81.4%)	4,819人(84.8%)	+1,526人[+46.3%]
合計(義務教育段階)	4,047人	5,684人	+1,637人[+40.4%]

現状・課題

- 京都府における不登校児童生徒数の出現率は、平成24年度から5年連続で増加しています。
(公立小中学校における不登校児童生徒の状況)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
小 学 校 (出現率)	397人 0.30%	406人 0.32%	495人 0.39%	542人 0.43%	594人 0.48%
中 学 校 (出現率)	1,693人 2.68%	1,757人 2.77%	1,770人 2.83%	1,847人 3.00%	1,881人 3.12%

(現状データ等は別紙資料参照)

対応方策

- 教員の資質能力向上を図り、質の高い学力をはぐくみます。
- 伝統文化学習など京都ならではの教育を進め、豊かな人間性をはぐくみます。
- 一人一人を大切にし、個性や能力を最大限に伸ばします。
- 安心・安全で充実した教育の環境を整備します。
- ICTの活用など、新しい時代に対応した教育を進めます。

対応方策を検討するに当たっての論点

■ 教員の資質能力向上を図り、質の高い学力をいかに高くむか

- ① 超スマート社会の到来を見据えた、新しい学びのスタイルについて
- ② 使命感と実践力を兼ね備えた教員の養成と教職員の働き方改革について

■ 伝統文化学習など京都ならではの教育を進め、豊かな人間性をいかに高くむか

- ① 人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性の育成について
- ② 伝統を受けつぎ、新たな文化を創造する心と技の育成について

■ 一人一人を大切にし、個性や能力をいかに伸ばすか

- ① 新たな時代を豊かに生きる力の育成に向けた魅力ある学校づくりについて
- ② 一人一人の自立や社会参加を目指す特別支援教育の推進について

■ 安心・安全で充実した教育の環境をいかに整備するか

- ① いじめ防止と不登校支援に係る総合的なサポート体制の充実について
- ② 経済的に困難な環境にある子どもへの支援の充実について
- ③ 学校・家庭・地域社会の連携協働による教育の推進について
- ④ 生涯学習社会の実現に向けた学習環境の充実について

■ ICTの活用など、新しい時代に対応した教育をいかに進めるか

※上記の10項目、全てに共通

【上記の対応方針に連動して検討すべき数値目標について】

数値目標の候補	単位	現状：2017
全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国平均正答率の1/2以下の児童生徒割合	%	小：9.2 中：9.6
人が困っているときは進んで助けようとする子どもの割合	%	小4：87.0 中1：86.7/中2：80.5
地域の自然や歴史について関心がある子どもの割合	%	小4：66.8 中1：51.9/中2：34.9
海外留学を行った府立高校の生徒数（2012年度以降延べ人数）	人	629
特別支援学校生徒の就職率（高等部卒業者に占める就職者の割合）	%	27.7
認知されたいじめの年度内解消率	%	93.4（2016）
スクールカウンセラーを配置している学校の割合	%	小：17.6 中・高：100
経済的に困難な家庭の子どもの「全国学力・学習状況調査」における平均正答率	%	小6国 府：68.0 要：51.2/準：60.8 小6算 府：65.9 要：51.7/準：59.3 中3国 府：73.8 要：54.8/準：67.6 中3数 府：58.0 要：36.1/準：46.9
地域の特色を活かした子どもの活動の場の数	箇所	83
地域住民やNPO等と連携して地域学校協働活動が行われている学校の割合	%	小：91.4 中：75.0
府立図書館の本の貸出冊数	冊	245,860